

横斑プリマスロック種鶏の制限給餌による産卵成績向上

制限給餌により種鶏の体重をコントロールすることで、産卵成績が向上し増収が期待出来る

背景・目的

- ・「かごしま地鶏」の1つである「黒さつま鶏」の出荷羽数は年々増加し、今後も需要拡大の見込み
- ・「黒さつま鶏」の母方種鶏である横斑プリマスロックは増体能力に優れるが、過肥になりやすく産卵成績が低下
- ・種卵の増産、生産の安定化が求められており、産卵成績の向上を目的とした制限給餌方法を開発

成果の内容

1 育成期の給餌法(19週齢まで)

4週齢までは不断給餌とし、4週齢以降は不断給餌の60%に給餌量を制限
(目安:平均90g/羽・日, 体重2,480g(20週齢時))

2 成鶏期の給餌法(20週齢以降)

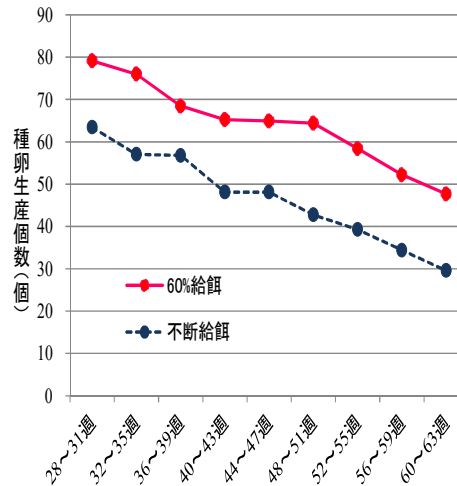
115g/羽・日給与から開始し、産卵率の増減に応じて給与量を調整
(最大130g/羽・日, 産卵率10%毎に2g/羽・日増減)



横斑プリマスロック

3 成鶏期の成績

不断給餌に比べて、生存率及び産卵率が向上し、種卵生産期間中の種卵生産個数は高いレベルで推移



HH種卵生産個数の推移

制限給餌と不断給餌による成鶏期の飼養成績

| | 生存率 (%) | HD産卵率 ¹⁾ (%) | HH種卵生産個数 ³⁾ (個) | 平均卵重 (g) | 飼料摂取量 (g/羽・日) | 平均体重 (g) |
|-------|---------|-------------------------|----------------------------|----------|---------------|----------|
| 60%給餌 | 98.3 | 59.8 | 64.1 | 60.4 | 126.3 | 3,108 |
| 不断給餌 | 71.8 | 53.0 | 46.6 | 62.2 | 197.5 | 3,342 |

注1) HD産卵率: 産卵個数/残存羽数×100 2) HH産卵率: 産卵個数/初期導入羽数×100 3) 種卵生産期間: 28週齢以降, 種鶏100羽当たり

導入メリット

制限給餌を行い体重を適切にコントロールすることで、飼料費の低減、種卵や素ひな生産数の増加が見込まれ、収益性の向上が期待できる

収益性

| 区分 | 飼料費 ¹⁾ | | 素ひな生産羽数 ²⁾ (羽) | 素ひな生産額 ³⁾ (千円/年) |
|------------|-------------------|------------|---------------------------|-----------------------------|
| | 育成期 (千円/年) | 成鶏期 (千円/年) | | |
| 60%給餌(a) | 5,586 | 12,955 | 613,174 | 165,557 |
| 不断給餌(b) | 8,538 | 20,255 | 446,158 | 120,463 |
| 収益性(a)-(b) | -2,952 | -7,300 | - | 45,094 |

注1) 種鶏(♀)年平均飼養羽数: 育成期2,850羽, 成鶏期4,680羽と試算, 飼料価格60円/kgとする 2) 受精率80%, ふ化率70%とする 3) 270円/羽とする

期待される効果

飼料費低減, 種卵供給の安定化, 素ひな生産額の増加による収益性の向上

鹿児島県農業開発総合センター 畜産試験場 中小家畜部 養鶏研究室

普及対象・範囲
県内の「黒さつま鶏」種鶏場